

被災地派遣レポート〈第54回〉

建設局西多摩建設事務所工事第一課 北角 俊雄さん

1. 派遣先へ

平成24年1月4日に派遣先の福島県いわき建設事務所に向け、上野駅から特急スーパー日立に乗車しました。車中で思うことは「これから自分が3ヶ月間知らない土地で知らない人達とうまく仕事をやっていけるか？」正直不安でした。

4日は移動日であったため、いわき建設事務所に着いたのは夕方でした。到着後すぐに着任式を行い、私は、河川の災害復旧を担当することとなりました。

2. 業務内容

まず業務体制ですが、河川担当班だとキャップ（係長）、福島県職員4人、派遣職員4人の計8人という体制で仕事を進めました。

私の業務は災害査定をうけた案件の「実施設計書の作成」「工事監督」「測量・設計委託設計書の作成」等で、東京都で日頃行っている業務と変わりませんでした。

「実施設計書の作成」ですが、積算システムはほぼ東京都のものと変わらず問題なく作業を進めることができましたが、設計書に添付する書類等の多さには正直驚いたこともありました。

また、設計書が完成するとキャップにチェック（福島では検算という）してもらいますが、そのチェックに時間がかかり、1本の設計書を作成するのに時間と労力を要しました。

「工事監督」の業務として、前任が発注した工事の監督を行いました。護岸、築堤の復旧工事が主でしたが、河川経験が浅い私にとってはいい勉強となりました。

工事監督については、福島県では今でも監督員1人制で、担当者が監督員になるわけですが、その責任の重さは監督員3人制の東京都にくらべてかなり重いもので、気を引き締めて監督業務をおこないました。

現場で変更要素があると「協議書」を提出してもらい、その内容について回答方針等を決定するのですが、その処理にも多大な時間を要することが度々ありました。このことについても業務改善を図り、スムーズに現場を動かし、1日でも早く工事を完了させ復旧することが重要ではないかなと思いました。

「実施設計書作成」「工事監督」等を行いました。とくに3月は「設計変更」「竣工検査」また、4月発注に向けた「実施設計書の作成」と忙しい日々を送りました。

3. 生活

天気は東京と同じで、気温が3℃くらい低いぐらいで1月～3月の派遣ではありましたが寒さはさほど感じませんでした。雪も結局、東京のほうが降ったのではないのでしょうか？

住まいは福島県で確保してくれた民間アパートで、ほかの派遣者も同じアパート暮らしでした。事務所まで自転車で10分くらいの距離ですし、スーパー等生活に必要な店が近くにあったので快適に生活することができました。

4. 派遣業務を振り返って

東日本大震災により福島県の河川、道路は大被害を受けていました。私はその災害復旧のために全力を尽くしたつもりですが、それには私のいない間、私の仕事をカバーしてくれた職場の仲間の力があったからだと思います。

今後は福島県で経験したことを少しでも生かして業務を遂行していきたいと思えます。